

一般質問

3月定例会では16人の議員が一般質問を行いました。

- ・紙面の都合上、質問等の一部を掲載します。
- ・QRコードは各議員の録画映像へのリンクです。
- ・会議録は5月下旬にウェブサイトに掲載予定です。

本稿は、質問者が作成しています。 ※本人の希望により、掲載しない場合もあります。

ID 1005109

3月8日(月)

- ・尾関さとる 議員 P.3
- ・岡本 将嗣 議員 P.3
- ・渡部 晃久 議員 P.3
- ・八木 丈之 議員 P.4
- ・服部 修寛 議員 P.4
- ・中村かずひと 議員 P.4
- ・東 潤 正人 議員 P.4
- ・小林けいめい 議員 P.5
- ・柴田 雄二 議員 P.5
- ・本山 廣次 議員 P.5

3月9日(火)

- ・井上 文男 議員 P.5
- ・河村 弘保 議員 P.6
- ・鶴飼 和司 議員 P.6
- ・後藤美由紀 議員 P.6
- ・彦坂 和子 議員 P.6
- ・市川 智明 議員 P.7

令和会
尾関さとる
議員



保健所について

Q 令和3年4月の市保健所開設時には、職員数は何人を予定しているのか。

A 令和2年4月1日時点の県一宮保健所の正規職員数は57人で、専門職は47人（医師、獣医師、薬剤師、保健師等）です。市保健所の正規職員数は69人で、専門職は43人（医師1人、獣医師9人、薬剤師14人、保健師13人、看護師3人、管理栄養士、歯科衛生士、放射線技師が各1人ずつ）ですが、市保健所では県庁で行っている業務も行います。

Q 応援として、県から市保健所に派遣される職員は何人となるのか。

A 保健所長を始め17人です。

Q 県の経験豊富な職員から市の職員に切り替わるが、前述の人数で県と同程度の仕事のクオリティを維持できるのか。

A 市保健所における実務経験者は、69人中、県などで研修を受けた市職員15人と県からの派遣職員17人の合計32人となりますが、県派遣職員の協力を得ながら、県庁とも連絡を密に取り合い、業務に努めてまいります。また、コロナ対応に関しては、県も全庁的な応援体制を組んでいることから、市においても同様な体制で臨みたいと考えております。

令和会
岡本
将嗣
議員



町内会加入と、ごみ集積所問題について

Q ごみ集積所を新たに設置したい場合、町内会は何に注意すればよいか。

A 事前に清掃対策課までご相談いただくようお願いしており、収集車が他の車両の通行を妨げることなく安全に通行できること、可燃ごみ集積場所であれば原則10世帯以上に1か所であることなどを条件としています。

Q 町内会に未加入の方は、集積場所にごみを出してはいけないのか。

A 集積場所の使用禁止はできないと考えますが、使用される方々でルールを守り、協力して使用していただきたいと思います。

キャッシュレス決済の推進について

Q コロナ禍における消費喚起事業として、プレミアム商品券ではなく、キャッシュレス決済ポイントを選択した理由は何か。

A 事務経費が少額で済むこと、支払い時の非接触化や時間短縮などコロナ対策にもつながることなどの理由によります。

Q 国がキャッシュレス決済を推進しているものの、地方ではなかなか進まない状況に対する市の方策は。

A 人口減少社会において効率性向上を図るため、デジタル市役所の実現を目指し、印鑑廃止と同様にキャッシュレス化を推進、推奨します。

令和会
渡部
晃久
議員



市の避難体制について

Q 災害が起きた時の避難には、垂直避難や自動車での避難など、いろいろな形がある。一方近所の家族が無事避難できたのか、逃げ遅れているのかの判断が困難になってきている。災害が発生した時の各世帯の避難方針を町内会等で共有することは重要と思うが、市での呼びかけはできるか。

A 「地震は避難所へ」「風水害は自宅の2階へ」といった「世帯ごとの避難方針」が地域で共有されていれば、共助による発災直後の助け合いを期待できます。これについては、町内会等での出前講座等で周知することは可能です。

Q 福祉避難所への避難を必要とする方は移動するにも負担が大きい。避難所を通じ調整が必要なのは理解しているが、直接福祉避難所へ移動できるよう、避難所での申出は介助者等による代理でもよいか。

A 特段の事情がある時は、個別の状況により対応します。

Q 感染症対策として市が開設する指定避難所や補助避難所ではなく、地域の集会場等に避難した場合、支援物資は市が開設する避難所で提供を受けることとなるが、代表者が一括で提供を受けることは可能か。

A 事前に避難所に申し出いただくことにより、代表の方の一括受領は可能です。

令和会
八木 丈之 議員



これからの治水対策について

- Q** 東海豪雨以降の取組みは何か。
A 一宮市総合治水計画に基づき、河川改修等の対策、流域対策、浸水被害軽減対策を進めるとともに、関係市町や県と連携した対策についても実施しております。
Q 今後の気候変動による降雨量の増大と水害の激甚化、頻発化を考えると、これまでの対策で大丈夫か。
A 河川管理者等の対策だけでは、追いつかない状況にあります。流域全体で国・都道府県・市町村・企業・住民等のあらゆる関係者が協働し、水害を軽減させる「流域治水」への転換を進めております。

- Q** 市の「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」は何か。
A 準用河川の整備を引き続き行い、新たに公園のグラウンドや広場に雨水貯留施設を整備していく予定です。
Q 県の取組みは何か。
A 日光川2号放水路は、事業着手しております。日光川では、国道22号から中島橋までを当面の整備区間とし、上流では遊水地を計画しております。青木川では、第3調節池の拡張を検討しております。
Q 国の取組みは何か。
A 木曾川堤防本体工事に向け、市を含めた関係機関との調整を進めております。

一宮市民クラブ
服部 修寛 議員



生活困窮者の増加と就労支援について

- Q** コロナ禍により生活困窮者が急増している。真に生活に困窮している人に速やかに保護活動を行って欲しいがいかがか。
A 生活困窮者から保護申請があった場合は、申請者の困窮状況を考え、速やかに決定するように努めます。
Q 就業を望む人へのきめ細かな就労支援を強く望むがいかがか。
A ハローワーク一宮と協同して、就業希望者への個別支援や企業とのマッチング機会の創出を行い、就職率の向上に努めていきます。

子どもの貧困対策の着実な推進のために

- Q** 子ども食堂の開設・運営についてはどの様に推進していくのか。
A 担当所管を明確にして、開設や運営の支援について検討していきます。

中学生の制服の変更について

- Q** 保護者の経済的負担と着用する生徒の負担の軽減を第一に考えて頂きたい。
A ネクタイやリボン・スカーフは採用せず、シャツは白で襟付き程度の規定にし、ズボンやスカートについては、スラックスやスカート・キュロットタイプを、自由に選択できる方向で進めています。

新緑風会
中村 かずひと 議員



シビックプライドの醸成について

- Q** シビックプライドとは、「街への誇り・愛着・共感をもち、街のために自ら関わっていきこうとする気持ち」のことをいう。このシビックプライドの醸成について、市の考えは。
A 定住を希望される方が増えるなどの効果も期待されことから、シビックプライドを醸成する取り組みについては、今後も検討していきたいと考えています。
Q 中学校の新制服基本デザイン案に子ども達の意見を反映させてきたことはシビックプライド醸成に有効であったと思うが、新制服導入の際も、制服の着こなし方

などに、子ども達の意見を反映させては。

- A** 新制服を採用するかどうか、採用する場合の着方のきまりは、学校ごとに検討していきますが、生徒、保護者、教員、みんな考えていくことが大切と考えます。
Q 歴史的・文化的価値がある浅野公園を管理・保存していくため、公園種別を現状の街区公園から、歴史公園が該当する特殊公園に変更できないか。
A 公園の機能や価値を考慮しつつ、特殊公園への変更が可能か研究していきます。



令和会
東 正人 議員



街頭防犯カメラ設置促進について

- Q** 一宮警察署と連携して、街頭防犯カメラの設置を進めているとのことだが、事業の内容は。
A 一宮警察署が防犯活動に熱心な市内企業や団体に呼び掛け、市内の犯罪を抑止するという本事業の趣旨にご賛同いただいた企業から、防犯カメラを市へ寄贈いただくものです。
Q 寄贈を受けた防犯カメラの設置場所は、どのように決められているのか。
A 現在の防犯カメラの設置状況や犯罪の発生状況、寄贈頂いた企業のご意向などを踏まえ、一宮警察署と相談しながら選定を行っています。

一宮駅周辺の開発について

- Q** 駅周辺での容積率の緩和の内容は。
A 一宮駅周辺の土地の高度利用を促進するため、平成30年10月1日に容積率を400%から600%に緩和したものです。

一宮市内の企業誘致について

- Q** 工業用団地の造成計画がない状況で企業誘致のための市の取組はいかがか。
A 市街化調整区域内で企業が立地できる土地を入手しやすくする措置の適用と、立地促進奨励金・雇用促進奨励金制度により進出企業を支援しています。

新緑風会
小林 けいめい
議員



市独自の自宅発着タクシーサービスについて

Q 一宮市には、公共交通機関として、JR、名鉄電車、名鉄バス、iーバス、iーバスミニが運行されている。自宅からバス停が遠い公共交通の空白の地域はあるか。そこに住む市民は何人か。

A 市では、最寄りの鉄道駅から1km、かつ、バス停から500m以上離れた地域を、交通不便地域としており、交通不便地域は、令和元年度末で一部残っており、人口割合で0.8%、約3,000人がお住まいです。

Q iーバスや路線バスの沿線にスーパーや病院などがあるとは限らない。また、運転免許証を返納される方が多くな

り、さらに困っている人が増えたと感じている。タクシーを活用した利便性の確保が必要になってくると考えるが、一宮市でも、自宅発着のタクシーサービスが実施できないか。

A 路線バスやiーバスは高齢者を含め、多くの方々に利用していただいております。また、市の人口や面積の規模からも、近隣市のように、iーバス、iーバスミニに代えて、全てを自宅発着型のタクシーに切り替えることは難しいと考えており、現在の路線バスを何とか維持・確保していくことが最優先の課題であると認識しています。

公明党一宮市議団
柴田 雄二
議員



未来の人財を育てる

Q ここ数年通信制高校へ進学される数と生徒・保護者からの相談や支援をどのようにされているか。

A 通信制高校へ進学した生徒は、平成30年で68名、令和元年で80名、令和2年で74名です。通信制高校は全日制・定時制と違い、登校日や日数、曜日、学習内容等を選択する必要があるため、進路指導は早目に体験入学や見学ができるよう個々に合わせた対応をしています。

Q 一宮市はある広告の調査によると、通信高校へのニーズが高い。そして入学金や授業料が高く、通学意欲はあるものの断

念するケースが多いと聞く。そこで、生活保護世帯、ひとり親世帯の御子息へ支援を検討することはできないか。

A 県・国から公立のみならず私立高校の授業料が実質無償化され、いちのみや応援基金や一宮・木全・オーシマ奨学基金の活用も含め、更なる支援は困難と考えます。

Q 福祉支援として、生活保護世帯、住民税非課税世帯の子どもたちに、未来の可能性を開く機会を得るための支援を差し伸べることはできないか。

A 生活困窮者の学習意欲のある子どもたちに対し、必要に応じて進路相談の支援を行っていきたいと考えます。

令和会
本山 廣次
議員



重度障がいのある方に対する生活用具給付について

Q 大規模災害等で長期停電が起きた場合、在宅人工呼吸器等装着者は、どのように電源を確保したらよいか。

A まずは、予備のバッテリーを確保することですが、予備バッテリーについては、診療報酬加算の対象に含まれることから、人工呼吸器の本体と同様に医療機関から貸与を受けることができます。これにより数時間は対応可能になりますが、やはり限りがありますので非常用自家発電機や更なる予備バッテリーによる対応が必要になってきます。

Q 予備バッテリーや非常用自家発電機の価格はどれくらいか。

A 人工呼吸器などの精密な医療機器に対応するにはインバーター付きの発電機が必要となり、自家発電機で10万円以上、バッテリーでも5万円以上となっています。

Q 大規模災害が起きた複数の県や市では、在宅で人工呼吸器等を使用する障がいのある方に非常用電源装置等の購入費用を助成しているが、今後、一宮市でも助成してもらえないか。

A 障がい者が使用する様々な用具の助成要望も含めて、他市の状況を研究しながら、総合的に判断していきたいと考えます。

令和会
井上 文男
議員



いちばんだいすき。一宮 人を呼び込む～シティプロモーションについて

Q 木曾川沿川サイクリングコースMAPに掲載されている施設にロードバイク等の自転車用スタンドを設置できないか。

A 現状設置する計画はありませんが、集客につながる可能性はあると考えます。

Q 市民健康増進の観点から本庁舎に同様の自転車スタンドを設置できないか。

A 現状設置する計画はありませんが、利用状況を考慮し、研究してまいります。

Q 木曾川沿川サイクリングコースMAPを今後作り直す計画はあるか。

A 河川管理者や周辺自治体との連携に

よる木曾川上流域自転車道整備活用推進会議にて、令和3年度より岐阜県側を含め木曾川沿川だけでなく、各種施設や見どころポイントを掲載した新たなマップの作成と、スマートフォン等でも利用可能なコンテンツについても検討すると聞いております。

Q ハッシュタグで検索するなどリアルな情報を今まで以上に積極的に収集していないか。

A 幅広い視野で、積極的に情報を収集していくように努めてまいります。

河村 弘保
公明党一宮市議員



空気の汚れ、可視化で対策

Q 市役所本庁舎、尾西庁舎、木曾川庁舎は換気に対してどう取り組まれているか。

A 3庁舎とも空調等を利用して、常時、換気する仕組みが作動しています。そのような中で、定期的な換気等、空気の管理に努めています。

Q 換気の日安として、二酸化炭素濃度を測定する装置を活用してはいかがか。

A 二酸化炭素濃度の測定値を判断基準の一つとして換気を行うことは有効です。測定装置などの調査とともに、厚生労働省をはじめ国からの通知などによる情報を注視していきます。

災害時、赤ちゃんへの備え

Q オムツやミルク等、赤ちゃんに関わるような備蓄品はどうなっているか。

A 紙おむつは約1万8千枚、粉ミルクは810グラム入りの「大缶」で20缶、哺乳瓶は800本、それぞれ備蓄をしています。

Q 液体ミルクは、賞味期限が短く、備蓄に踏み出せない一面もある。各家庭での備蓄の啓もうを推進する上で、いざというときの迅速な供給にむけて何かできないか。

A 液体ミルクも含めた赤ちゃん特有の備えに関しては、民間事業者との協定も含めて、費用面やスペース、手段などを調査研究していきます。

鵜飼 和司
自由民主党一宮市議員



中核市移行を契機とした地域猫活動の推進について

Q ふるさと納税の仕組みを活用した動物愛護への264万円余の寄付金は、どのように活用されるのか。

A 猫の必要以上の繁殖を抑制し、殺処分を減らすため、避妊去勢手術費の補助に充てたいと考えております。現在の避妊去勢手術費の助成に上乗せする形で、飼い主のいない猫への助成額を手厚くする仕組みを検討中で、令和4年度からスタートしたいと考えております。

Q できる限り早期の実施を要望する。

A 早期の実施ができるよう検討を進め

てまいりたいと考えております。

Q 野良猫の被害に困っている地域の方、ボランティアで地域猫活動をする方、双方とも「野良猫を減らしたい」という願いで一致する。野良猫を減らすことを目的とした市の方針があれば、地域猫活動への理解が広がると同時に、ボランティア活動を後押しできると考える。所有者のいない猫に対する一宮市の考えを表明していただきたいが、いかがか。

A 「一宮市地域猫活動推進事業要綱」といった所有者のいない猫への対応に関するガイドラインについて、作成を検討したいと思っております。

後藤 美由紀
いちのみやを良くする会議員



国際化・多文化共生について

Q 平成27年から外国人の人口が増加し、現在7,009人だが連区別人口と0歳から15歳の外国人の子どもは何人か。

A 連区別で多いのは、丹陽町1,036人、大和町763人、西成565人、木曾川町514人、今伊勢町454人です。子どもは553人です。

Q 外国人に日本語を教えているような事業があるか。

A 向山公民館や三条つどいの里で毎週日曜、ききょう会館で毎週土曜に日本語教室を、木曾川公民館では毎週月・木曜夕方に放課後学習支援教室を実施しています。ただしコロナで現在中止、ききょう会館は

令和3年度から会場が変更になる予定です。

Q 言葉の壁、差別・偏見をなくし、子ども達がともに過ごせることは、いじめや犯罪防止にもつながる。また災害時などにも伝達がスムーズになり、コミュニケーションもとやすくなる。誰1人取り残さない町一宮、更なる中核市として就学前に国が推進する帰国・外国人児童生徒等教育推進支援事業のプレスクールをやれないか。

A 国際交流親善ボランティアの協力以外に、保育園、幼稚園、学校等との連携・調整も必要となるため、様々な状況を見極めながら総合的に判断していきます。

彦坂 和子
日本共産党一宮市議員



保健所運営と感染症対策（市政運営）

Q これまで検査体制の拡充を求めてきた。市保健所の運営に際し、検査の拡充等市民の命と健康を守る取り組みの考えは。

A 必要に応じてPCR検査等の受検指示や健康観察を行い、現在県が行っている業務を引き継いで着実に実施していきます。

尾西児童図書館の閉館と公立図書館の役割

Q 市川房枝さんたちの思い、図書館協議会での審議がない、議会への提案の仕方、4月からの図書館業務の後退など、いろいろな問題がある。尾西児童図書館の閉館の撤回をしてほしい。存続してほしい。

A 4月から利用者は市内の18歳未満の児童やその保護者となり、今まで利用されていた一般の方が利用できなくなることも承知しています。今後は不便が解消されるような方策を研究していきます。

一宮市保育所等総合管理計画と公的保育の役割

Q 公立保育園を民間移管せずに継続することや、1クラスの人数を少なくする内容に見直してはいかがか。

A 計画に基づき、民間活力の活用による保育サービスの充実や公立保育園の定員適正化を進めていきたいと考えています。



ごみの減量とリサイクルについて

Q プラスチック製容器包装とプラスチック製品を一括回収し、処理ルートを一つにすることで作業に要する人手を削減するなど、自治体の負担軽減につながる法案が国で検討されている。先進事例として東京都日野市では一括回収したプラスチックごみが、コークス炉原料などに生まれ変わっている。一宮市ではどう考えるか。

A プラスチックごみの一括回収については、今までの分別ルールの大きな変化となり、慎重に検討する必要がありますので、国・県などからの今後の情報を注視していきたいと考えています。

Q 北海道幕別町では、スーパーなどで使用するレジ袋を減らそうと、買い物用に町中でも持って歩けるようデザインを工夫した町指定のごみ袋をレジ袋の代わりに購入し、使用後は可燃用のごみ袋として利用できるようにしている。一宮市でも導入してはどうか。

A 市内の一部のスーパーマーケットでは、指定ごみ袋導入時から既に実施しています。2020年末に環境省が発表したレジ袋の辞退率は約7割という高い率でしたので、プラスチックごみ削減を目的とした指定ごみ袋の販売促進につきましては、民間での取組に期待したいと考えています。



市議会紹介コーナー

おしえて!いちみん

一宮市議会のいろいろを紹介している「おしえて!いちみん」。今回は、令和3年3月定例会で初めて行われた、「会派代表質問」について、ご紹介します。



会派代表質問ってなに?いままであったっけ?

市長による市政運営方針や政策課題を中心に、会派の代表が質問するのが「会派代表質問」です。
毎年3月定例会(市長が変更となった時は次の定例会でも)で実施されます。この令和3年3月定例会から初めて導入されました。

質問はだれでも行うことができるの?

2名以上の議員^{*1}で構成する会派^{*2}の1名が、会派の代表として質問を行うことができます。
(^{*1} 令和3年3月現在) (^{*2} 同じ主義主張を持った議員の集まり)

どんなことでも質問できるの?

市政運営方針や政策課題について行います。質問と答弁の制限時間は基礎時間(30分)と加配時間(会派所属議員数×2分)の合計です。

一般質問(個人質問)はどうなるの?

これまでの一般質問(個人質問)も行います。ただし会派代表質問のある定例会では、制限時間が一人30分となります。また会派代表質問を行った議員は個人での一般質問を辞退することとされています。

